

自立活動学習指導案

授業日時 令和3年9月29日(水)
3校時(10:50～11:30)
対 象 ○学部○年生 7名
場 所 ○学部○ホール
指 導 者 T1 ○○ ○○ T2 ○○ ○○

1 題材名 「見て、聞いて、伝えて、やってみよう」

2 生徒の実態

生徒	実 態
A	・○年生 ○子 知的障がい 自閉症 【アセスメント】 ・太田のステージ ○-○ (令和2年6月実施), S-M 社会生活能力検査 社会生活年齢 CA:○-○ (令和元年7月実施) 【本単元に関わる実態】 ・他者より自分の方ができると思うと、見下したような発言をすることがある。 ・時間の見通しを持って活動スピードを変えることが苦手である。 ・筋力が弱く機敏な動きは苦手であるが柔軟性がある。 ・自分の興味関心の高いテーマでは積極的に話しかけるが、会話は苦手で一方的になることがある。 ・明確な目標の達成に向け、自分で考えて課題に取り組もうとする姿勢が見られるようになってきた。
B	・○年生 ○子 知的障がい 【アセスメント】 ・太田のステージ○以上 (令和2年2月実施) 【本単元に関わる実態】 ・色覚異常があり、色の区別がしにくい。 ・自己肯定感が低く、情緒が不安定になることがあり、登校は週に3～4回程度である。 ・成功体験が少なく、運動に対して苦手意識がある。 ・教師や友達と挨拶や会話を交わしたり友達と一緒に活動したりすることができる。 ・集中力を持続して活動に取り組んだり細かい作業を継続して行ったりすることが苦手である。 ・書字に関しては筆圧が弱く、雑になることがある。
C	・○年生 ○子 知的障がい 自閉症 ADHD 【アセスメント】 ・旭出式社会適応スキル検査 全検査 ○歳後半, 言語スキル ○歳後半, 日常生活スキル ○歳後半 社会生活スキル ○歳前後半, 対人生活スキル ○歳後半 (令和2年6月実施) ・太田のステージ ○-○ (平成31年2月実施) 【本単元に関わる実態】 ・夢中になると周りが見えなくなり、自己中心的な行動をとってしまうことがある。 ・股関節や足首など身体が硬い。自分の身体のボディイメージや物との距離などをはかる空間認知の面に課題がみられる。 ・人と話をすることが好きであるが、何度も同じことを言う等説明が苦手である。 ・課題に対して自分で考えて工夫することは難しいが、明確な目標を示すと意欲的に取り組むことができる。
D	・○年生 ○子 知的障がい ADHD 【アセスメント】 ・旭出式社会適応スキル検査 全検査○歳前半, 言語スキル○歳後半, 日常生活スキル○歳後半, 社会生活スキル○歳後半, 対人生活スキル○歳後半 (令和2年5月実施) ・太田のステージ○-○ (後期) (平成31年2月実施) 【本単元に関わる実態】

	・集団での活動では、友達の意見を聞いて協力しながら取り組むことができる。
	・自分の気持ちや感情を言葉で伝えることが苦手である。 ・経験のないことについては、口頭指示や説明を聞いて理解して行動することが苦手である。 ・筆圧が弱く、整った丁寧な字を書くのは苦手である。 ・課題に対して自分で考えて工夫することは難しいが、明確な目標と具体的にすべきことを伝えると、意欲的に取り組むことができる。
E	・〇年生 〇子 知的障がい 【アセスメント】 ・旭出式社会適応スキル検査 全検査 〇歳後半，言語スキル〇歳後半，日常生活スキル〇歳後半 社会生活スキル〇歳前半，対人関係スキル〇歳前半（令和2年5月実施） ・太田のステージ 〇-〇（平成31年2月実施） 【本単元に関わる実態】 ・イメージできない事や経験したことがない事に対して不安感があり，何度も確認することがある。 ・口頭指示や説明を聞いて理解したり周囲の状況に意識や注意を向けたりすることが苦手である。 ・棒を縦，横方向に回転させながら投げてキャッチする動作が連続してできる。 ・分からないことを教師に伝えることができるが，自分の思い込みや判断で行動することがある。 ・自分で判断したり考えたりしながら活動を進めることは苦手であるが，具体的な目標に対する自己評価は行うことができる。
F	・〇年生 〇子 知的障がい 自閉症スペクトラム 【アセスメント】 ・太田のステージ 〇-〇（令和2年6月実施） 【本単元に関わる実態】 ・勝敗の勝ち負けにこだわることもあり，自分の思い通りに進まない時は不安定になる。 ・自分の興味関心の高いテーマでは積極的に話しかけるが，会話は苦手で一方向的になることがある。 ・機敏な動きが苦手であるが，棒を回転させながら投げたり受けたりすることができる。 ・自分の苦手なことや，やりたくない活動の時には，強い口調で拒否をすることがある。 ・周りの状況を見て自分の行動を変えることが苦手である。 ・自分の興味関心の高いことに対しては，意欲的に課題解決に向けて自分で考えながら意欲的に取り組むことができる。
G	・〇年生 〇子 知的障がい 【アセスメント】 ・旭出式社会適応スキル検査：全検査 〇歳前半，言語スキル 〇歳前半，日常生活スキル 〇歳前半 社会生活スキル 〇歳後半，対人関係スキル〇歳後半（令和2年6月実施） ・太田のステージ 〇-〇（平成31年2月実施） 【本単元に関わる実態】 ・友達に自分から積極的に話しかけていくが，相手の気持ちを理解できず一方向的になることがある。 ・身体全体のバランスが悪いため，粗大運動にぎこちなさが見られる。 ・視覚的な情報や聴覚的な情報を処理することができるが，人に説明するときには時系列に正確に伝えることが苦手である。 ・分からないことがあると，自分で考えたり質問したりしながら解決しようとする姿勢が見られる。

3 題材設定の理由

本グループは小学校から本校中学部に入学してきた〇年生の生徒6名と本年度より地域の中学校から転入してきた生徒1名，計7名で構成されており，高等部卒業後には就労を目指している。さまざまな活動に友達と一緒に取り組むことができ，生活面でも7名とも身辺面は自立している。しかし，コミュニケーション面では，対人関係がうまく築けていないことがある。体育の授業の中での球技のゲーム中に思い通りにいかなかったり負けたりすると友達を責めるような言動や「こんなゲーム二度とやりたくない」等自己中心的な言動が見られる生徒がいる。また，口頭指示や説明を正確に理解して行動することが難しい生徒もあり，自信がなく消極的になることがある。また，教師との会話の中で曖昧な受け応えになり，混乱してつじつまを合わそうとする場面も見られる。友達との会話については，共通の趣味を通して休み時間に談笑する姿も見られる一方，自分の思いや考えを上手に伝えたり相手の話を正確に聞いて継続して会話したりすることが難しい場面もある。身体面では，体を動かすことが好きでランニング等の活動に意欲的に取り組むことができる生徒も多い。しかし，体幹が弱く姿勢の保持が難しかったり身体イメージが不十分で，球技でボールを追いかける時に必要以上に大きく手を動かしてしまい，危険なプレーにつながったりするなど不器用さが見られる生徒もいる。心理的

な不安から不登校傾向の生徒もあり、それぞれ実態は多様である。視覚機能や認知機能の簡易スクリーニング検査を行ったところ、形や空間的な位置を把握する視空間認知の面で弱さがみられる生徒がいた。また単語や文章の復唱が苦手で、聞く力の弱い生徒がいることも分かった。個々の課題について3つの側面から考えると、つまづきの原因を①学習面（見る力、聞いて覚える力、想像する力）②身体面（体をうまく使う力）③社会面（感情をコントロールする力、人に伝える力）の弱さと捉えることができる。

そこで、本題材では、共通の課題である「行動調整や人との適切な関わり（人間関係）（環境の把握）」「身体のぎこちなさと姿勢保持（身体の動き）」「状況に応じたコミュニケーション（コミュニケーション）」に焦点をあてて指導を行う。生徒によっては、「情緒の安定（心理的な安定）」にも焦点をあてて良好な人間関係作りを促し、安定した学校生活につなげたい。生徒の学習上・生活上の苦しさや困難さを減らしていくため、多方面から支援ができるようにコグトレの内容を取り入れながら活動内容を設定した。

本時は、3つの活動（①目の体操②違い探し③棒キャッチ）を行う。①目の体操では、一定のリズムで眼球を左右、上下、斜めに動かしたり、回転させたり、寄り目で両眼を同時に動かしたりする眼球運動のトレーニングを行う。これは、見る力をつけ、正確に書く力、読む力、運動する力、イメージするための基礎的な力を育てることを目的としている。②違い探しゲームでは、2枚の絵を並べて3～4人のチームで力を合わせて違いを見つける活動を行う。友達が見つけられていない時には、ヒントを出して伝えるように設定し、2つの絵を見比べながら視空間認知の力や相手の気持ちも考えながら伝える力をつけることを目的とした。③棒キャッチの運動では、7人で輪になって片手に1本ずつで両手に2本の棒を持って投げると同時に棒を持ち替え、空いた手で棒をキャッチする活動を行う。はじめは1本の棒で3～4人で取り組み、友達が受け取りやすい位置をイメージしながら棒を操作できるようになったため、本時は難易度を上げて2本の棒を使って取り組むことにした。相手を意識しながら棒をコントロールすることで、目や手足の協調運動能力の向上を目的としている。②③の活動については、小集団で意見を交わしながら協力することで、苦手な課題の活動であっても楽しみながら安心して学習できるように考えた。また、課題をクリアしていく体験を通して、達成感を感じ、自尊感情、自己肯定感を育んでほしい。

評価については、活動を振り返って生徒が目標に対する評価をノートに記入するようにしている。意欲的に取り組めるように、棒キャッチでは自分たちでiPadを使用して活動の様子を撮影し、動画を見て客観的に振り返る場面を設定した。適切に自己評価し、加えて友達のがんばりにも注目できるようにすることも目指している。自分の得意な部分と苦手な部分を知り、課題を見つけて解決していく体験をしてほしい。

生徒のつまづきに対して学習面、身体面、社会面の3つの側面から支援することは、学校生活において他の教科や作業学習の中でも生徒自身の理解を深めることができる。また、身体や手先を上手く使ってスキルを高め、自分の行動や学習を調整する力につながり、多くの学びに生きていくだろう。また、家庭を含めた生活全般において、相手の存在や気持ちを考えて行動する経験を重ねることは、良好な人間関係を築くことにつながっていくと考えている。

4 題材の目標（自立活動の時間における指導を通して育成を目指す資質・能力）

- ① 視覚や聴覚の情報を整理したり処理したりする能力や集中力を高めることができる。（知識及び技能）
- ② 身体イメージを高め、体幹を強化し姿勢保持や身体を上手く使う力をつけることができる。（知識及び技能）
- ③ 自分の意思を伝えたり友達の意見を聞いたりしながら意見交換し、課題を解決しようとすることができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ④ 目標を意識して活動に取り組んだり、活動後に振り返って自己評価したりしながら、課題の解決に向けて自分で工夫しようとするすることができる。（学びに向かう力・人間性等）

5 ※個別の指導計画と関連する題材の目標（総時数 55 時間）

	活 動	内 容	①	②	③	④
年 間	◎目の体操 (本時 24/55)	自分の指先を目標物にして左右、上下、斜めに眼を動かしたり1回転させて目で追ったりする	○			
5 月 ～ 10 月	最初とハイ	教師が読む文章を聞きながら、決められた言葉が聞こえた時に手を挙げたり、文の最初の単語を覚えて書いたりする	○			
	折り合わせ図形。 黒塗り図形	マス目にある記号を上下対称に正確に写す 共通した形の輪郭を見つける	○			
	◎違い探し (本時 4/6)	2枚の絵の違いを見つけて共通点・相違点を把握する	○		○	○
	棒運動	棒をコントロールしてバランスをとったり回転させたりする	○	○		○

	◎棒・玉キャッチ (本時 8/10)	グループでお互いに棒や玉の投げ受けを行う	○	○	○	○
	バランスボール	バランスボールに座って姿勢を保つ(片足上げ, 閉眼等)		○		○
10月 2月	何が一番	文章を理解して覚えて問題に答える	○			○
	落～ちた落ちた	リーダーの指示を聞いて決められたポーズをとる	○			○
	スタンプ(心で回転)	スタンプの印面を考えることで鏡像をイメージする	○			○
	紐結び, 新聞ちぎり 爪楊枝積み	チームで指先の細かい動きや両手の協調運動を含む活動を力加減しながら行う	○	○	○	○
	動きをまねる	対面したときに相手の立場になって交差模倣で動作模倣する	○	○		○

※上記活動から3つ選んで実施する。

6. 本時の目標

(1) 本時の目標

- ・2枚の絵を見て, 違いを見つけたり説明したりすることができる。
- ・友達にヒントを出す時に相手の気持ちを考えながら適切な方法で伝えることができる。
- ・友達が受け取りやすいように投げることを意識して2本の棒キャッチができる。
- ・前時に考えた目標や改善点を意識して活動に取り組もうとすることができる。

(2) 本時の個人目標

◎個別の指導計画に関する目標

生徒	本時の目標	関連する自立活動の内容
A	◎2枚の絵の違いを見つけ, 友達にヒントを伝えることができる。 ・改善点を生かし, 友達と2本の棒キャッチができる。 ・振り返って目標に対する適切な自己評価ができる。	4- (4), 6- (3) 4- (4), 5- (5) 4- (4)
B	・友達と一緒に違い探しをすることができる。 ・友達と一緒に棒キャッチの活動ができる。 ・振り返って目標に対する適切な自己評価ができる。	2- (1), 3- (4) 2- (3), 3- (4) 4- (4)
C	◎2枚の絵の違いを見つけ, 友達にヒントを伝えることができる。 ・改善点を生かし, 友達と2本の棒キャッチができる。 ・振り返って成功したところとできなかったところを発表することができる。	4- (4), 6- (3) 4- (4), 5- (5) 4- (4), 6- (3)
D	◎2枚の絵を見て違いを見つけ説明することができる。 ・改善点を生かし, 友達と2本の棒キャッチができる。 ・振り返って目標に対する適切な自己評価ができる。	4- (4) 4- (4), 5- (5) 4- (4)
E	・2枚の絵を見て違いを見つけ説明することができる。 ◎改善点を生かし, 友達と2本の棒キャッチができる。 ・振り返って目標に対する適切な自己評価ができる。	4- (4), 4- (4), 5- (5) 4- (4)
F	・2枚の絵の違いを見つけ, 友達にヒントを伝えることができる。 ・改善点を生かし, 友達と2本の棒キャッチができる。 ・振り返って目標に対する適切な自己評価ができる。	4- (4), 6- (3) 4- (4), 5- (5) 4- (4)
G	・2枚の絵の違いを見つけ, 友達にヒントを伝えることができる。 ・改善点を生かし, 友達と2本の棒キャッチができる。 ・振り返って成功したところとできなかったところを発表することができる。	4- (4), 6- (3) 4- (4), 5- (5) 4- (4), 6- (3)

7 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点		評価規準	評価方法
		T1	T2		
授業前	ノートに目標を書く。	・前時のノートを見て, 今日 の目標を書くように促す。	・必要に応じて前時のノート の目標を確認するように促す。		
3分	1 始まりの挨拶をする。	・当番の生徒に号令を指示する。 (A)	・正しい姿勢ができていない時は, 声かけを行う。	・正しい姿勢ができて いるか確認してから号令 をかけることができ	発言

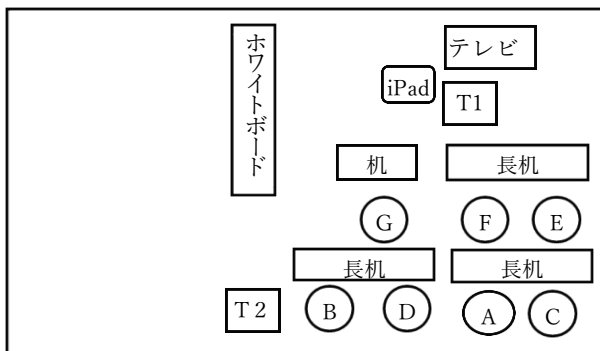
				る。(A) ・姿勢を整えることができる。(全員)	観察
	2 今日の学習内容を知る。 3 今日の目標の確認をする。	・スケジュールを伝える。 ・ノートへの注目を促してD,Eに今日の目標について質問する。	・ホワイトボードのスケジュールへの注目を促す。	・スケジュールに注目することができる。(全員) ・今日の目標を発表することができる。(D,E)	観察 発言
4分	4 目の体操をする。	・隣の友達と身体があたらないように間隔をとって移動するように伝える。 ・iPadを使用してテレビに視線の動かし方を示したスライドを提示する。 ・メトロノームに合わせてカウントする。	・間隔が近すぎる場合は、立ち位置の訂正を促す。 ・Dに見る位置の目印として爪に丸シールを貼るよう促す。	・メトロノームの音に合わせて視線を動かすことができる。(全員)	観察
15分	5 違い探しをする。 (1) 準備する。 Xチーム (A,B,C,D) Yチーム (E,F,G) (2) 違いを探して絵にマグネットを貼って説明する。 (3) 友達にヒントを出す。 (4) 振り返りをする。	・テレビ画面でルールを説明する。 ・チームに分かれてホワイトボードの前に移動するように促す。 ・8個のマグネットをグループの人数で分けるように促す。 〈Xチーム〉 ・タイマーで時間の計測(3分)を開始する。 ・違いを見つけたら説明しながら右の絵にマグネットを貼るように促す。 ・タイマーで時間の計測(3分)を開始する。 ・3分が経過したら、見つけられていない部分について、友達に位置を表す言葉で伝えるように促す。 ・3分経過後、8個全ての違いが見つからない時は、正解を示す。 ・着席してノートに目標に対する○か△の自己評価を書くように促す。 ・適切な評価ができていたら賞賛する。	・テレビ画面への注目を促す。 〈Yチーム〉 ・違いを説明することができていたら正解であることを伝えて称賛する。 ・適切な伝え方ができていたら称賛する。 ・3分経過後、8個全ての違いが見つからない時は、正解を示す。 ・様子を見守り、必要に応じて助言する。	・テレビ画面に注目することができる。(全員) ・友達と一緒に違い探しをすることができる。(B) ・違いを見つけてマグネットを貼り、説明することができる。(A,C,D,E,F,G) ・位置を表す言葉でヒントを伝えることができる。(A,C,F,G)	観察 観察 発言 観察 発言 ノート
15分	6 棒キャッチをする。 (1) 改善点を確認する。 (2) 手指消毒をして棒2本を準備する。 (3) 撮影用にiPadのビデオ機能を起動する。 (4) 輪になって友達と2本の棒で棒キャッチをする。	・前時に書いたホワイトボードを配り、改善点を確認するように促す。 ・手指消毒をするように声かけをする。 ・iPadの準備を促す。 ・タイミングがずれている時には、かけ声のかけ方や工夫したらよいポイントに気づくようにヒントを示す。	・ホワイトボードへの注目を促す。 ・iPadの操作が難しい場合は、声かけや指さしで動作を誘導する。 ・横の友達と適切な間隔をとれているか確認し、必要に応じて修正を促す。	・ホワイトボードに注目できる。(全員) ・iPadでビデオ機能を起動することができる。 ・友達と棒キャッチの活動ができる。(B) ・改善点を生かして友達と2本の棒で棒キャッ	観察 観察 観察 観察

	(5) iPad で撮影を開始する。 (6) 撮影した動画を見て自己評価する。	・改善点を生かすことができていたら称賛する。 ・タイマーが鳴ったら撮影を開始するように伝える。 ・タイマーが鳴ったら iPad を TV に接続して映す。 ・撮影した動画を見て、○か△で評価してノートに記入するように促す。 ・評価が正しくできていたら称賛し、必要に応じて一緒に動画を確認して修正を促す。 ・改善点を生かすことができるかにも注目して動画を見るように促す。	・ iPad の操作が難しい場合は、声かけや指さしで動作を誘導する。 ・様子を見守り、必要に応じて助言する。	チができる。 (A, C, D, E, F, G) ・ iPad で撮影することができる。 ・動画を見て適切な評価をノートに記入することができる。(全員)	観察 観察ノート
3分	7 感想を発表する。 8 終わりの挨拶をする。	・ C, G を指名し、できたこと、できなかったことについて発言を促す。 ・発言に対して共感しながらフィードバックし、得意なことと苦手なことを意識できるようにする。 ・次回は今日の棒キャッチの動画を見て改善点を考えることを伝える。 ・当番の生徒に号令を指示する。	・発表している生徒への注目を促す。 ・正しい姿勢ができていない時は、声かけを行う。	・できたこと、できなかったことについて発表ができる。(C, G) ・姿勢ができていないか確認してから号令をかけることができる。(A) ・姿勢を整えることができる。(全員)	発言 発言 観察

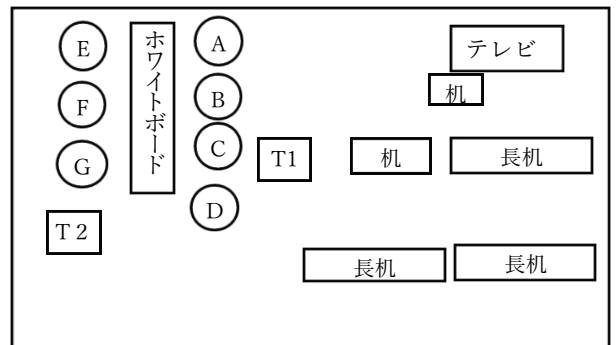
8 準備物及び環境設定

テレビ, iPad(2 台), iPad 用スタンド, ホワイトボード(黒板), ホワイトボード(小), ホワイトボードマーカー, タイマー, 違い探しシート, マグネット, 新聞紙棒, アルコール消毒, メトロノーム, 机

【全体での活動】



【違い探し】



【棒キャッチ】

